

日々歩

hibiho

ひびほ

TAKE
FREE

がんをこえて、ともに歩む

季刊 No.28 / 2020 Summer

がんを学ぼう [教えて!ドクター]

がん患者さんの
「新型コロナウイルス感染症」対策
(東病院 感染制御室)

がんプロフェッショナルたち
作業療法士



あなたを支えるチーム医療の輪
「入院準備センター」を起点に
安心快適な入院治療を

「がんと生きる」を支えます!
新たにスタートした
「治験・臨床研究教室」

新型コロナウイルス感染症における 中央病院・東病院の対応について

中央病院・東病院では、安心してがん治療をお受けいただけるよう、院内でのマスクの着用や手指消毒、検温、面会制限などのご協力をお願いしております。患者さんやご家族の皆さまには、ご理解をいただきましてありがとうございます。現在、初診・通院・手術・セカンドオピニンなど通常通り行っております。職員一同、引き続き院内感染の確実な防止に努め、がん診療を継続してまいります。通院中の患者さんにおかれましては、自己判断で受診を控えることなく、ご心配な点がございましたら、病院スタッフまでご連絡なく相談ください。

※本誌4～5ページもあわせてご覧ください

がん患者さんのための ホームエクササイズ動画

中央病院・東病院の骨軟部腫瘍・リハビリテーション科では、外出自粛などで運動の機会や活動量が減り、筋力や体力の低下が気になるがん患者さんに向けて、ご自宅で簡単にできるホームエクササイズ動画を作成し公開しています。

手術後、放射線療法中・後、薬物療法中・後などの、すべてのがん患者さんが行うことができるエクササイズを、解説付きでご紹介しています。立ち上がりや歩行に関連する下肢のトレーニングのほか、上肢や嚥下訓練といったテーマも追加していく予定です。屋内でも行える運動を続けることで、筋力や体力を保ちましょう。

※本誌3ページでもご紹介しています



東病院「さくらテラス」がリニューアル

東病院の中庭にある「さくらテラス」が8月7日にリニューアルオープンしました。「家族との時間を共有できる安らぎの空間」をテーマに、今まで屋外にあったテラスを拡張し、屋内空間34席を増設。



※写真はイメージです

Wi-Fiや冷暖房も完備してい

ます。病院から中庭につながる出入口を通して、天候に左右されずに利用できます。春の桜をはじめ、自然を通じて四季を感じられるくつろぎの空間を、ぜひご利用ください。

東病院が鶴岡市立荘内病院との 医療連携を開始

東病院と鶴岡市立荘内病院（山形県）は、医療連携に関する協定を7月に締結しました。国立がん研究センターは、2017年に鶴岡市などと連携拠点協定を結んでがん診断薬などの研究開発を進めており、こうした流れの中で今回の新たな取り組みがスタートしました。



今後、荘内病院に「がん相談外来」を開設し、東病院の医師が月1回程度診療を行うほか、荘内病院を、がんの遠隔診療のプロジェクト施設に位置づけ、オンライン診療の実証研究を実施します。また、研修参加など医療スタッフの人事交流も行い、両病院の医療の質の向上を図ります。

今回の連携により、地方都市在住の患者さんが専門性の高いがん治療を受ける機会が広がるほか、遠隔診療の活用による患者さんの身体的・経済的負担の軽減が期待されます。

東病院が地域の医療機関と連携協定を結ぶのは初めてで、日本の遠隔診療モデルの実現を目指します。

《目次》

■ News & Topics	2
■ がんプロフェッショナルたち	3
中央病院 骨軟部腫瘍・リハビリテーション科 作業療法士たち	

■ がんを学ぼう【教えて！ドクター】	4
がん患者さんの「新型コロナウイルス感染症」対策 東病院 感染制御室	
■ あなたを支えるチーム医療の輪	6
vol.9 「入院準備センター」を起点に安心快適な 入院治療を	

■ 「がんと生きる」を支えます！	7
vol.10 新たにスタートした「治験・臨床研究教室」	
■ NCC INFORMATION	8
東病院・レディースセンターから 相談窓口「女性看護外来」に何でも遠慮なく相談を	

日常生活に関わるすべての活動を通じて 心と体の機能回復・維持をサポート

中央病院骨軟部腫瘍・リハビリテーション科では、3人の作業療法士が、他の職種と連携しながらがんの患者さんのリハビリを担当しています。がん医療における作業療法士の役割やリハビリの内容について、櫻井卓郎さん、八尋佐知子さん、大木麻実さんに聞きました。

—作業療法士はどのような職種ですか。

八尋 「作業」を介して患者さんの心と体に働きかけるのが私たちの仕事です。作業とは、身の回りのこと、家事、仕事、創作など、すべての人の営みを指します。患者さんが目標とする作業ができるように練習したり、楽しみを感じられる作業を提供したりすることで、心も体も元気になるような支援をしています。

—中央病院の作業療法の体制は？

櫻井 リハビリテーション科専門医1人、理学療法士4人、言語聴覚士2人と連携しながらリハビリを提供しています。作業療法部門は2010年に開設し、18年6月から3人体制になりました。

—作業療法の対象になるのはどのような患者さんですか。

櫻井 骨軟部腫瘍や脳腫瘍で手術を受ける方、血液腫瘍で造血幹細胞移植を受ける方、そして、全ての科の高齢の患者さんに関わることが多いです。

骨軟部腫瘍で主に上肢の手術をする患者さんには、手術前から上肢機能の評価や、義手や装具の説明を行い、術後は日常生活を送るための練習をしていきます。

八尋 脳腫瘍で手術を受ける患者さんに

は、手術の前と後に、体の動きや高次脳機能^{※1}の評価をし、生活の中でできる工夫を具体的にアドバイスします。社会復帰して人付き合いや仕事を続けるうえで、病気のことを詳細に明かさなくても、自分ができることとできないことを周囲の人に上手に伝える方法を提案することもあります。

血液腫瘍で造血幹細胞移植を受ける患者さんは、移植前から身体機能と高次脳機能の評価を行い、退院後も体調に合わせて続けられるような自主トレーニング方法を指導します。

高齢患者さんに対しては、認知機能が低下していても、その人らしく生活を送れるような方法を一緒に探します。作業を通じて患者さんご家族との関係づくりを支援する場合もあります。

がん種に関係なく、再発の不安を感じている患者さんも多いので、簡単にできる手芸や工作をしながらお話を聞いて、気持ちの支援をすることも多いです。

—その他に最近取り組んでいることはありますか。

大木 AYA世代(思春期・若年成人、15～39歳)のサポートチームに参加し、作業療法士として心身機能維持向上、就学・就労支援等に関わっています。AYA世代は、進学、就職、結婚、出産など人生のイベントが多い世代であり、がん患者さんはさまざまな悩みを抱えています。社会との繋がりを保ちながら自分らしい人生を送れるように、一人ひとりに寄り添う心のケアにも力を入れています。



リハビリテーションを行う作業療法室にて
左から八尋さん、櫻井さん、大木さん

—外出自粛期間中に新たな活動を始められたとうかがいました。

大木 新型コロナウイルス感染症の影響で外出や運動の機会が減ったがん患者さんに向けて、自宅で簡単にできるホームエクササイズ動画を作成し、当院のホームページ^{※2}で公開しました。作業療法部門では、座ったままできる上肢の運動を紹介していますので、筋力や体力を保つためにも、ぜひ取り組んでみてください。動画は今後も増やしていく予定です。

—がんの作業療法への想いを聞かせてください。

櫻井 がんの作業療法は新しい分野で、患者さんに必要な支援を開拓しながら進めているところがあります。そこに現在進行形で関わることにやりがいを感じています。患者さんたちには、作業療法をしている瞬間だけでもハッピーになってもらえたら嬉しいです。

※1 注意を払い、記憶・思考・判断をするための認知能力や行動遂行能力。

※2 ホームエクササイズ動画はこちら
https://www.ncc.go.jp/jp/ncch/clinic/orthopedic_surgery/040/index.html



過度に恐れず、感染予防の徹底を

新型コロナウイルス感染症が、私たちの生活に大きな影響を及ぼしています。がん患者さんに発熱、咳、倦怠感などの症状があったときにはどう対処すべきなのでしょう。また、次の流行を想定して、どのような備えをしたらよいのでしょうか。東病院感染制御室長で総合内科医長の沖中敬二医師が解説します。

がん患者さんがどれほど重症化の危険性があるかはまだ不明

発熱、咳、倦怠感、食欲不振など新型コロナウイルス感染症の症状は、通常の風邪と似ていますが、一般的に回復には時間がかかる人が多いようです。なかには、吐き気や下痢といった症状から発症する人もいます。味覚障害・嗅覚障害に注目が集まりましたが、その頻度は報告によって異なります。欧州の大規模なアンケート調査では65%程度と報告されています。

約8割の人は比較的軽い症状で済むものの、2割ほどの人は重症化して酸素吸入が必要な肺炎を発症し、一部で人工心肺が必要なほど重症化することがあるのが新型コロナウイルス感染症の特徴です。

一部の研究では、がん患者さんが新型コロナウイルス感染症にかかりやすい可能性や、感染すると重症化しやすいことが懸念されています。しかし、わかっていないことも多いのが実情です。

ただ、がん患者さんには高齢者が多く、糖尿病、高血圧、心臓病などを併発している人もいますので、もともと感染症に対するリスクが高い傾向があります。また、造血幹細胞移植直後の患者さんは、普通の風邪の原因となるウイルスである新型コロナウイルスへの感染でも、肺炎を発症しやすいことが知られています。抗がん剤治療中で、特に白血球などの値が下がっている場合は、感染症の合併に注意が必要です。

感染が疑われるときは担当医に相談を

発熱、咳などが出たときの対処法について、あらかじめ担当医と相談している場合には、その指示に従って対応してください。特に何も言われていない場合、軽度の熱や咳だけなら、1～2日様子をみてよいでしょう。

また、以下のような場合には、担当医に連絡・相談が必要です。

●「2週間以内に新型コロナウイルス感染症の患者さんや感染が疑われている人との接触があった」「流行地へ出張や旅行に行った後に発熱した」など、感染した危険性が高い場合。●息苦しい、顔色が明らかに悪い、ぼんやりしているなど、右ページの表の「緊急性の高い症状」に当てはまるとき。●白血病など血液がんの人、造血幹細胞移植後や、4週間以内に抗がん剤治療や手術を受けた患者さんに感染が疑われるとき。

家族や介護者は、がん患者さんの体調に注意し、気になる症状がある場合は担当医に相談してください。

家族の体調が悪いときには、食事や寝る部屋は別にするなど、できる限り、がん患者さんとの接触は避けるようにしましょう。接触が避けられない場合には、家の中でもお互いにマスクをし、できるだけ1～2m以上の身体的距離を取り、こまめに手を洗うようにしましょう。1時間に2回程度、部屋の換気をすることも大切です。



東病院 感染制御室長・総合内科医長
沖中敬二 医師

おきな・けいじ／2000年浜松医科大学卒業。中央病院造血幹細胞移植科・総合内科勤務後、2015年より現職。現在も週1回は中央病院造血幹細胞移植科に勤務。専門はがん患者の感染症診療。「情報の発信元はどこか確認し、根拠のない情報や誤情報に振り回されないように注意してください」

ひととの距離を取り飛沫を回避 こまめな手洗い、換気も重要

新型コロナウイルス感染症の主な感染経路は「飛沫感染」と「接触感染」です。飛沫感染とは、感染者がくしゃみや咳をしたり、話したりしたときに出る飛沫に含まれるウイルスを口や鼻から吸い込むことによる感染です。飛散した唾液中のウイルスは、手すりやつり革、テーブル、デジタル機器などの表面で、一定時間生存することが知られています。ウイルスを含む飛沫がついたものを触った手で、目や鼻、口などの粘膜を触ると、そこからウイルスが体内に侵入する接触感染が起こります。

感染予防のためには、密集、密接、密閉、いわゆる「3密」を避けることが大切

です。通常、飛沫が飛ぶ距離は2mとされます。できるだけ家族以外の人との間隔は1～2m以上取り、職場などでも頻繁に換気をしましょう。距離が取れないときや病院受診時、公共交通機関利用時など、人が多い空間では、マスクを着用するようにしましょう。

予防のためには、こまめな手洗いも重要です。外出先からの帰宅後、調理や食事の前、明らかに汚れがついたときには、指の間や手首まで、流水と石けんを用いて、20～30秒かけてしっかり手を洗いましょう。手を洗う場所がないときには、アルコール消毒による手指消毒も有効です。

外出中は、接触感染のリスクを考え、目、鼻、口に手を触れないようにしてください。ドアノブ、スイッチ、手すり、リモコン、電話など、家庭内で複数の人がよく触れる部分は、こまめに清掃・消毒しましょう。市販の塩素系漂白剤を用いて消毒薬を作る際には、厚生労働省のサイト※が参考になります。ただし、次亜塩素酸^{しあえんそさん}ナトリウム^{ふんむ}溶液や次亜塩素酸水の噴霧は、効果がないどころか、噴霧液を吸い込むと肺にダメージを与える恐れがあり危険です。でお勧めできません。

体調を整えるためには、バランスのよい食事と睡眠をしっかり取り、規則正しい生活を心がけることも大切です。また喫煙は重症化の危険性が指摘されている

ため、禁煙をお勧めします。

体力が落ちると、がん治療が受けられなくなってしまうこともあります。人との距離を保ちつつウォーキングや自転車こぎをするなど、体調がよいときに体を動かすようにしましょう。当センターのホームページでは、筋力・体力の低下を防ぐために自宅で簡単にできるホームエクササイズを動画で紹介しています。

※本誌3ページをご覧ください

肺炎球菌ワクチン接種など 次の流行に向けて準備を

新型コロナウイルス感染症に対しては、現在(2020年7月末)のところで、ワクチンや効果の高い治療薬はないため、感染拡大が繰り返される可能性があります。次の流行に備えて準備してほしいことは、「肺炎球菌ワクチンの接種」です。年齢に関係なく、がん患者さんで肺炎球菌ワクチンを打っていない人は、最寄りの医療機関で接種してください。年齢などによって、自治体の助成が受けられる場合もあります。過去に接種したことがある人は追加接種が必要か、担当医にご相談ください。

10～11月には、インフルエンザワクチンも接種しましょう。これらのワクチンを接種しても新型コロナウイルス肺炎を防げるわけではありませんが、肺炎球菌

やインフルエンザによる重篤な合併症を予防できる可能性があります。またがん患者さん以外の方は、状況を見ながら定期的にがん検診を受けましょう。

病院は感染予防に最大限努力 治療を継続し生活を楽しんで

今後も国や自治体が、自粛要請などを出したときには、不要不急の外出は控えるようにしましょう。ただし、がんの治療や検査、診察は自己判断で中止したりせず、必ず担当医や看護師に相談してください。国立がん研究センターでは、感染予防に配慮しつつ、患者さんたちのがん治療に影響が出ないように最大限努力しています。

いろいろと不安を抱えていらっしゃる方も多いと思いますが、過度に恐れる必要はありません。予防対策を徹底することで、感染リスクを低くすることは可能です。新型コロナウイルス感染症関連の情報は、公的機関や関連学会などから入手し、デマや根拠のない情報には振り回されないよう気を付けてください。一人暮らしの人は、電話やメールなどで家族や友人と連絡を取り、社会的な孤立を防ぎましょう。感染予防をしながらも、患者さん同士の交流や趣味、生活を楽しむことは続けていただきたいと思います。

●緊急性の高い症状 * はご家族がご覧になって判断した場合です。

表情・外見	・顔色が明らかに悪い* ・唇が紫色になっている ・いつもと違う、様子がおかしい*
息苦しさ等	・息が荒くなった(呼吸数が多くなった) ・急に息苦しくなった ・日常生活の中で少し動くと息があがる ・胸の痛みがある ・横になれない、座らないと息ができない ・肩で息をしている、ゼーゼーしている
意識障害等	・ぼんやりしている(反応が弱い)* ・もうろうとしている(返事がない)* ・脈がとぶ、脈のリズムが乱れる感じがする



●「新しい生活様式」の実践を (厚生労働省／6月19日に一部改訂)

□まめに手洗い・手指消毒 □咳エチケットの徹底 □こまめに換気(エアコン併用で室温を28℃以下に) □身体的距離の確保 □「3密」の回避(密集、密接、密閉) □一人ひとりの健康状態に応じた運動や食事、禁煙等、適切な生活習慣の理解・実行 □毎朝の体温測定、健康チェック。発熱または風邪の症状がある場合は無理せず自宅療養

●新型コロナウイルス感染症対策参考サイト



◇国立がん研究センター東病院「新型コロナウイルス感染症について」
https://www.ncc.go.jp/jp/ncce/division/infectious_control/040/COVID-19.html



◇厚生労働省「身のまわりを清潔にしよう～新型コロナウイルス対策～」※
https://www.meti.go.jp/covid-19/pdf/0327_poster.pdf

東病院のサポートケアセンター/がん相談支援センター(☎04-7134-6932、平日8:30～17:15)、中央病院の相談支援センター(☎03-3547-5293、平日10:00～16:00)では、電話相談も実施しています。

「入院準備センター」を起点に安心快適な入院治療を

東病院では、入院して治療を受ける全ての患者さんを対象に、病院3階の入院準備センターで入院支援を実施しています。入院準備センターの機能と、看護部を中心とした多職種連携体制について、サポーターケアセンター副センター長で副看護部長／がん化学療法認定看護師の近藤美紀さんが紹介します。

入院治療の流れと準備について説明

東病院の入院準備センターは、入院の予約や手続きを行うとともに、入院治療に向けて心と体の準備をスタートしていただく場です。手術や抗がん剤治療などのために、担当医に「入院が必要」と言われた患者さんは、外来診療の後、入院準備センターで、まずは入院予約の手続きをしていただきます。

その後、入院準備センターの看護師が、「クリニカルパス」と呼ばれる入院診療計画書を用いて、入院治療の内容や流れを説明します。また、これまでの病歴や合併疾患、職業、普段の生活状況、アレルギーの有無、入院や治療に関しての不安や心

配事などをお聞きし、必要に応じて、医師、栄養士、リハビリ職種、医療ソーシャルワーカー、薬剤師、レディースセンターなどと連携しながらサポートしています。

入院する際に持参してもらいたい物などは、患者さんが具体的にイメージしやすいように、実物をお見せしながら説明するなどの工夫をしています。また、大腸がんの手術後に人工肛門（ストーマ）が必要になる患者さんに対しては、ストーマの模型やDVDを使いながら、術後のセルフケアの方法も説明します。

安全に配慮し認知機能のチェックも

当院では、入院を予定している65歳以上の患者さん全員に、専用のチェックシートを用いて、認知機能や身体機能の状況や社会支援の必要性などを包括的に把握するスクリーニングも行っています。本人やご家族も気づかない、ごく軽度の認知機能の低下であっても、入院によって環境が変わったり手術などで体に大きな負担がかかたりすると、混乱して転倒したり、脳の機能に乱れが生じる「せん妄^{もう}」を起こしやすくなったりすることがあるからです。

認知機能の低下が認められる人や、せん妄を起こすリスクが高い患者さんは、精神腫瘍科に紹介し、入院後も担当医や病棟看護師と精神腫瘍医が連携してサポートしています。退院後、自宅へスムーズに帰れるように介護保険の申請方法を案内するなど、入院準備の段階から退院後の生活までを見据えた支援を



「患者さんが安心して治療に臨めるように、入院準備の段階から継続してサポートします」
(近藤美紀副看護部長)

行います。

入院準備センターにお越しの際は、外来診療のときに担当医に聞けなかったことも含め、わからないこと、心配なことなど何でも自由にお話してください。患者さん一人ひとりの生活や価値観に合わせて、生活の質（QOL）を維持・改善しながら、できるだけ万全な体制で入院治療に臨めるように、多職種で連携しながらサポートしたいと考えています。



食道がんの患者さんが入院時に持参する衛生用品などの見本。できるだけ実物を見せながら説明することを心がけています。

入院～退院後まで不安なく過ごせるよう、社会的・精神的支援に力を入れています



東病院サポーターケアセンター長・呼吸器内科長 後藤功一医師

当院では、初診時から社会的・精神的サポートを行うことを目的に、2014年にサポーターケアセンターを開設し、その機能の一つとして入退院支援に力を入れています。入院準備センターで看護師

が患者さんのお話を聞いて、必要に応じて入院前からソーシャルワーカー、精神腫瘍医、薬剤師、管理栄養士、理学療法士などの多職種が連携して患者さんを支援することにより、平均在院日数も短縮化しています。入院や治療、退院後の生活に不安があったら、何でも入院準備センターやサポーターケアセンターにご相談ください。

「がんと生きる」を
支えます！

中央病院・患者サポートセンターへようこそ vol.10

新たにスタートした「治験・臨床研究教室」

「治験や臨床研究について、もっと知りたい」と思いませんか。中央病院・患者サポートセンターでは、今年7月から、「治験・臨床研究教室」がスタートしました。教室の企画・運営を担当する看護部/臨床研究支援部門・研究支援担当副看護部長の中濱洋子さんが、教室の目的や内容について解説します。

疑問や不安を解消する場に

— 治験・臨床研究教室とは？

当院の患者さんやご家族の治験・臨床研究に対する疑問や不安を解消し、研究的な治療について理解を深めていただくことを目指した教室です。がんの患者さんやご家族は、「治験って何?」「臨床研究に参加してほしいと言われたけど、どうしたらいいの?」など、治験・臨床研究にさまざまな思いを抱いていらっしゃると思います。講義形式で話をするだけでなく、患者さんやご家族が治験・臨床研究について、相談できる場にしたいと考えています。

— 開催日時とは？

毎月第3木曜日、13時半～14時半の1時間です。本来は予約なしで気軽に立ち寄って参加できる場にしたいのですが、感染症対策のため、当面は8階の患者サポートセンターで予約をお願いします。

— どのような人に参加してほしいですか。

どなたでも気軽にご参加ください。治験や臨床研究への参加を検討している方、現在参加中の方、または参加後の方、治験について知りたいと考えている方など、どなたでも大歓迎です。「患者本人が治験への参加を希望しているけれども不安がある」というご家族の方だけで参加

していただいても大丈夫です。ただし、どの治験・臨床研究に参加可能かなど、患者さん個人の治験・臨床研究情報を提供する場ではないことはご注意ください。

よりよい治療法の確立に向けて

— 教室を立ち上げたきっかけは？

米国の病院では、「化学療法教室」「放射線療法教室」などと同じような形で、患者さん向けの「治験・臨床研究教室」が開催されています。CRC（臨床研究コーディネーター）の経験もある看護師として、治験や臨床研究に関わる中で、日本でも、もっと治験・臨床研究が患者さんたちにとってわかりやすく身近なものになってほしいと考え、企画を温めてきました。

当院は、より優れたがんの治療法を開発し、いち早く患者さんへ届ける使命のもと、多くの治験や臨床研究を実施しています。そのため、当院の患者さんは、治療の選択肢の一つとして、治験や臨床研究への参加を提示される機会が少なくありません。実際に参加するかどうかに関わらず、患者さんが納得して自らの治療を選択することができて、希望をもって最善の医療を受けることに繋がるよう、治験や臨床研究について一緒に考え



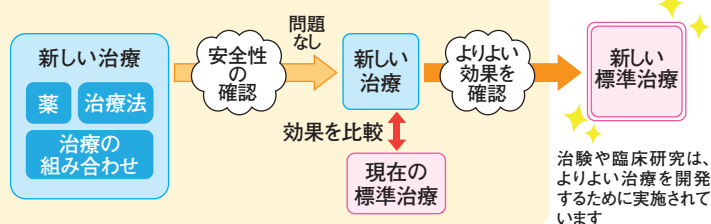
看護部/臨床研究支援部門・研究支援担当副看護部長の中濱洋子さん

る場を提供していきたいと思います。

— 今後の展望を教えてください。

治験・臨床研究教室の開始に向けて、患者さんのご意見も伺いながら、看護師、CRCや医師と内容を考えてきました。今後は、参加してくださる患者さんやご家族との関わりの中から、その時々ニーズに合わせて、この教室を作っていきたいと考えています。現在の標準治療は治験・臨床研究の積み重ねの結果、確立されてきたもので、将来のよりよい治療を目指すには、患者さんのご協力が不可欠です。こんな話が聞きたいなど、要望がありましたら遠慮なくお寄せください。

臨床試験（治験）の流れ



出典：国立がん研究センターがん情報サービス
https://ganjoho.jp/public/dia_tre/clinical_trial/ct_qa01.html

「患者サポートセンター」をご活用ください

中央病院8階にあり、さまざまな職種
の専門家が患者さんご家族の相談
に応じる他、各種の患者教室も
開催しています。

- 利用時間 月～金曜日
8時30分～17時15分
- 一部のプログラムは要予約



当センターへのご支援、厚く御礼申し上げます。今後ともますますのご支援を賜りますようお願い申し上げます。
お預かりした寄付金は、プロジェクト寄付、または、がん研究・がん医療の発展のため、大切に使用させていただきます。

寄付者ご芳名（敬称略／掲載ご希望者のみ）

■がん研究・がん医療のための寄付（使途を指定しない寄付）

舟山芳告 小泉晴湖 刀根幸二 佐々木滋晴 株式会社COLORS
清水淳一 株式会社DropStone 山田拓 平島裕臣
有限会社ガッツ 代表取締役 山本博 奥幸代 渡辺俊最
佐藤英幸 後藤豊子 中島軍二 愛媛オレンジバイキングス
Chehales Tapscott 宮崎幸男 今泉義春 堀秀行 堀田淳
株式会社ティアウマン 手島勝 花田仁子 Candriam Luxembourg
金城正和 豊田正男 田中正人 吉野智一 原口栄一
日本レディフュージョン株式会社 越川文雄 安部光子
千田忍 穂庭英高 岡田正雄 上杉恵巳 原田弘子
伊東聡 松本隆子 西澤恭子 佐藤泉 小室忠雄
福湯通夫 更科真一 宮下哲雄

■プロジェクト寄付（使途指定寄付）

□NEXT 伊藤慎一 佐藤孝男 中島優子 林田牧子
山田数義 長谷川典子
□SCRUM-Japan 弘亮国際商事合同会社
□Endeavor 福川大和 患者由来がんモデル研究会
Shino Kusunose
□届けるを贈る 届けるを支える『がん情報ギフト』
日向良和 岡田隆 インケア株式会社
■物品のご寄付
アブラック生命保険株式会社 伊藤順子 株式会社東京総合不動産
櫻井智明 小松由美 三島和子 オイシックス・ラ・大地株式会社
国立障害者リハビリテーションセンター学院ICT研究会 秋山玉緒
住友ベークライト株式会社 李小燕 有限会社曉翠 観音山フルーツガーデン

コムネット株式会社 株式会社コスギ
やくしま果鈴 山のおやつ工房 株式会社伊豆パレス
日本国際医療交流センター株式会社 株式会社モトックス
一般財団法人mufef アメ横 志村商店 蓮沼ひより
ホテルモンテ株式会社 在日華商公益会 株式会社サンアロー
東京銀座ロータリークラブ DCHL JAPAN株式会社 立石真一
大崎勝啓 東京ヤクルト販売株式会社 矢澤文朗
株式会社セントラルヘルスケアジャパン 株式会社丸八製茶場
池谷直子 ニュートリー株式会社 株式会社ボッカクリエイト
フレンズオブドクターズ ハンズオン東京
フェイスシールドプロジェクト 株式会社ユニーク
(2020年2月1日～5月31日)

■ご寄付について WEBサイトはこちら

がん研究センター 寄付

検索



女性の治療＆生活を支援 東病院・レディースセンターから

●女性患者さんが安心して治療に向かえるように

「幼い子供に母親のがんをどう伝えたいの?」「自分のがんは遺伝性なのは?」「この治療が将来の妊娠・出産に影響を及ぼす可能性は?」——がんと診断された女性は、ライフステージに応じてさまざまな悩みや心配を抱えることがあります。また、治療の副作用による脱毛などの「外見の変化(アピランス)」や、手術時のリンパ節切除にともなう生じる「リンパ浮腫」に悩む方も少なくありません。東病院では、そうした女性がん患者さんが安心して治療に向かえるよう、2018年9月、レディースセンターを開設しました。各診療科の医師や看護師、薬剤師、リハビリ専門職、リンパ浮腫療法士、臨床心理士、医療ソーシャルワーカーなど、多様な職種が連携し、患者さんのニーズに合わせた支援を行っています。

レディースセンターの相談窓口として、まずじっくりと患者さんのお話を伺い、必要なケアをコーディネート

相談窓口「女性看護外来」に何でも遠慮なく相談を

東病院 女性看護外来専従 / がん看護専門看護師 千葉 育子

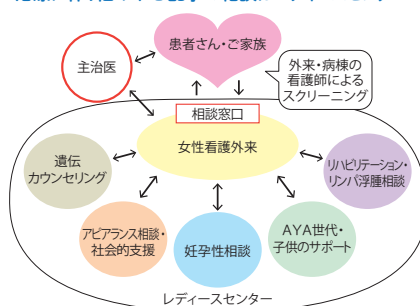
トしているのが、病院棟2階の「女性看護外来」です。がん看護専門看護師や乳がん看護認定看護師などが、情報提供やアドバイス、他の専門職への橋渡しなどを行います。患者さんの多くは主治医や外来・病棟の看護師にすめられ、予約を取って受診されますが、中には院内の案内ポスターを見て直接、窓口に来られる方もいます。

●大切にしたいことを一緒に考えましょう

AYA世代(思春期・若年成人=adolescent and young adult)と呼ばれる10代後半～30代の若い世代は、複数の問題に直面していることが多いため、女性看護外来をできるだけ受診していただくようにしています。一度に多くの問題を抱えて混乱されている場合は、私たち看護師と一緒に考え、相談しながら、一つ一つ優先順位をつけていくお手伝いをします。患者さんの中には、「こんなことを相談してはいけないのではな

いか」などと遠慮している方がいらっしゃるかもしれませんが、どんなことでも気軽に相談してください。

治療に伴う悩みや心配事の相談はレディースセンターへ



東病院 レディースセンター HP
<https://www.ncc.go.jp/jp/nccce/division/ladyscenter/index.html>



国立研究開発法人
国立がん研究センター
National Cancer Center Japan

<https://www.ncc.go.jp>

<https://www.facebook.com/nccgojp/>



中央病院
(築地キャンパス)

〒104-0045
東京都中央区築地5-1-1
Tel:03-3542-2511(代)



東病院
(柏キャンパス)

〒277-8577
千葉県柏市柏の葉6-5-1
Tel:04-7133-1111(代)



国立がん研究センター広報誌「日々歩」に関するご意見・ご感想は「広報企画室 日々歩」係までメールまたはFax、手紙にてお寄せください。

✉ ncc-admin@ncc.go.jp

FAX 03-3542-2545

〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1 国立がん研究センター「広報企画室 日々歩」係

[企画制作]国立がん研究センター企画戦略局広報企画室 [編集協力]株式会社 毎日企画サービス

発行:2020年8月